

ちよきさん、
ごめんね、
ありがとう。



増田璃子 吉沢悠

藤井武美 和泉ちぬ 広澤草 円城寺あや 橋本真実
大竹浩一 横内亜弓 田中良子 真銅倫子 三谷麟太郎 神尾翠優 宇和千夏 本谷紗己
芳本美代子 / 小松政夫

メイン写真 川島小鳥

音楽・主題歌 おおはた雄一「風の声を聴いた日に」
監督・脚本 金井純一『転校生』『ゆるせない、逢いたい』

小さな街の小さな美容室。盲目の少女と美容師のおじさんの、ていねいで、いとおいしい、小さな恋の話。

原案:7daysfilms / エグゼクティブプロデューサー:前田和紀 / プロデューサー:加藤伸崇 / アソシエイトプロデューサー:志賀弘明 村田徹 / 撮影:古原幸一 / 照明:加藤大輝 / 録音:岩間真 / 美術:大藤邦康 / 音響効果:武田拓也 / ヘアメイク:佐々木愛 / スタイリスト:工藤唯 / 編集:金井純一 / 劇中歌:waybee / 助監督:近藤有希 / 制作担当:松川浩 / ラインプロデューサー:古賀美一郎 / 撮影協力:わかやまじゃんじゃん横丁 青空とんび 和歌山県立和歌山盲学校 和歌山県立和歌山盲学校 和歌山マリナーシティ 他 / 題字:松村博峰 / 助成:和歌山市口ケ誘致支援補助金 / 制作プロダクション:SDP / 制作協力:SS 工房 / 配給・宣伝:SDP / 製作:「ちよき」フィルムパートナーズ (2016年 / カラー / アメリカンビスタ / DCP5.1ch / 98分) choki-movie.com ©2016「ちよき」フィルムパートナーズ

—— ストーリー ——

自然豊かな和歌山市の商店街にある美容室“HATANO”。

レコードとコーヒーが好きな波多野直人（吉沢悠）は美容師を、妻・京子（広澤草）は美容室の二階で書道教室をしていた。

7歳の瀬戸サキは、その書道教室に通っていた問題児だが、京子はサキを自分の娘のように可愛がっていた。

直人と京子の間に子供はいなかった。

時は経ち十年後、一本の電話がかかってくる。それは十年前のある事件以来会っていなかったサキ（増田璃子）だった。彼女は視力を完全に失っていた。直人も最愛の妻・京子を五年前に亡くしていた。

空白の十年間に何があったのか。

サキの想いを知り、直人はある大きな決意をする……。

—— イントロダクション ——

和歌山でのシナハンを経て金井勲一監督が書き上げたオリジナルヒューマンラブストーリー。盲目の少女・瀬戸サキ役という難役に抜擢されたのは増田璃子。金井監督とは短編「転校生」でタッグを組み国内外で高い評価を得て今作に至った。その独特な眼差しの表情と長編映画初主演とは思えない演技で、儂くも力強いサキを演じきった。

そのサキを優しく受けとめながらも、自身に深い葛藤を抱える美容師・波多野直人役を演じた吉沢悠。微細な感情の表現を求められる役を見事に演じきり、「ちよき」に新たな魅力を生み出した。またサキの親友で、弱視の河合あかね役の藤井武美。直人が営む美容室 HATANO の常連でスナックのママ、直人の理解者・江川舞役の芳本美代子。直人の古くからの常連客でコーヒーとレコード好きの宮本昭夫役の小松政夫、と個性的な面々が脳を固めている。音楽・主題歌はおおはた雄一が担当。監督リクエストによる全編書きおろしのギターの音色がストーリーにそっと寄り添い、主題歌「風の声を聴いた日に」はふたりを見守るような優しい歌声、詩で映画を締めくくっている。

メイン写真は川島小鳥が担当。台本を読んで現場入りし、そのインスピレーションからサキと直人が醸し出す、優しくも切ない雰囲気は独特の風合いで切り取った写真になっている。ロケ地・和歌山の街と人の魅力、そして金井監督が書き上げたオリジナルストーリーにキャスト、スタッフの想いが幾重にも重なり、映画「ちよき」が誕生した。



チャリティー映画上映会

11月23日（木）祝日

ビッグハート出雲 白のホール 10:00上映

12月2日（土）

島根県民会館 中ホール 14:00上映

【入場券】1,000円（完全前売り制）島根県民会館チケットコーナー、ビッグハート出雲でお求めになるか、後援会事務局まで電話でお申し込みください

主催 島根ライトハウス福祉事業後援会

後援 島根県／松江市／出雲市／島根県社会福祉協議会／松江市社会福祉協議会／出雲市社会福祉協議会
山陰中央新報社／NHK松江放送局／TSK山陰中央テレビ／BSS山陰放送／日本海テレビ

【お問合わせ先】

島根ライトハウス福祉事業後援会事務局 TEL.0852-66-7770

バリアフリー上映
（字幕・副音声あり）